



名市大**未来**プラン 2021

明るい**未来**を切り拓く**48**のプラン

明るい未来を 切り拓く



桜山(川澄)キャンパス

医学研究科・医学部
看護学研究科・看護学部



滝子(山の畑)キャンパス

経済学研究科・経済学部
人間文化研究科・人文社会学部
理学研究科・総合生命理学部



田辺通キャンパス

薬学研究科・薬学部



北千種キャンパス

芸術工学研究科・芸術工学部



名古屋市立大学の明るい未来を切り拓く

名古屋市立大学は、2014年10月28日の開学記念日に、「世界をリードする大学になる」との思いを持って「名古屋市立大学未来プラン」を策定しました。策定後6年が経った現在、掲げた52のプランはほぼ実現することができました。その代表的なものは、2018年4月開設の総合生命理学部や、2021年4月に東部・西部医療センターが附属病院になることです。また2025年にはわが国最大級の「救急・災害医療センター」がオープンする予定です。このようにして皆様の温かいご支援を得ながら、名古屋市立大学は着実に進化を遂げています。

一方、社会に目を転じれば、大学を取り巻く環境は大きく変化しています。超少子高齢化やグローバル化に加えて、デジタル革命やイノベーション創出などのSociety5.0に社会は向かっています。さらに新型コロナウイルス感染症を契機として価値観が変わりパラダイムシフトが起きています。名古屋市立大学は、このような環境下において国際間あるいは大学間競争を勝ち抜いていくために、自ら高い目標を設定し、常に成長していかねばなりません。

これらの背景を踏まえ、名古屋市立大学の進むべき方向性を長期的な視点で示す指針として、「名古屋市立大学未来プラン2021」を新たに策定しました。策定にあたっては、全学の各層からなる教職員に加えて、今春に附属病院になる東部・西部医療センターの方々など、総勢およそ100名が参加し議論を重ねました。8領域48プランからなる「名古屋市立大学未来プラン2021」は3年後から始まる第四期中期計画にも反映され、名古屋市立大学の明るい未来の礎になるものと確信しております。

「名古屋市立大学未来プラン2021」の着実な実現に向けて、教職員や学生はもとより、設置団体である名古屋市をはじめ関係省庁、企業、市民、同窓会など学内外の多くの方々からの温かいご理解とご支援を謹んでお願い申し上げます。

2021年2月吉日

名古屋市立大学 理事長 学長
 郡健二郎

目次

新しい「名古屋市立大学未来プラン」策定の背景	P.3
4つのビジョン、3つの視点、48のプラン	P.4
名古屋市立大学未来プラン2021 48のプラン一覧	P.5
1. 教育	P.7
2. 研究・産学官イノベーション	P.9
3. 社会貢献	P.11
4. 国際化	P.12
5. 医療	P.13
6. 経営基盤	P.15
7. 組織マネジメント	P.16
8. MIRAIへの展開	P.17
策定チーム リーダー・メンバー 一覧	P.18

新しい「名市大未来プラン」策定の背景

1. 本学の現状

本学は、1950年に名古屋女子医科大学と名古屋薬科大学の統合によって発足しました。2006年の公立大学法人化以降も研究・教育・社会貢献などの各種活動に邁進し、先端的研究の世界への発信、優れた人材の育成、市民の健康福祉などに寄与してきました。2018年には新設学部として総合生命理学部が設置され、7学部7研究科を擁する総合大学へと発展し、2020年には開学70周年を迎えました。

大学病院においては、この地域の中核的な医療機関として高度かつ安全で開かれた医療の提供や、質の高い医療人の育成に努めてきました。2021年度には名古屋市立東部・西部医療センターの附属病院化が予定されるなど、大学として大きな転機を迎えます。

2. 社会情勢の変化

少子高齢化やグローバル化の一層の進展、ビッグデータやIoT、人工知能(AI)など高度情報技術とその活用を核としたSociety5.0の動き、地球規模での貧困や増加する自然災害・環境問題の増加、そして新型コロナウイルス感染症拡大への対応を契機とした新しい生活様式への転換など、社会は大きく変化しようとしています。

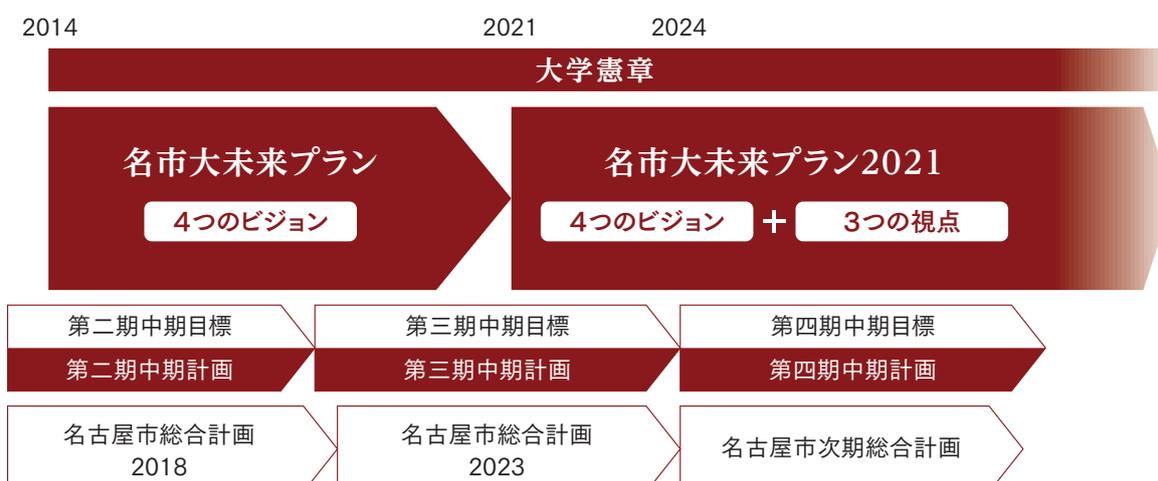
また、2015年に国連では、2030年までの国際目標であるSDGsが採択されました。本学の設置団体である名古屋市は、内閣府より「SDGs未来都市」に選定されており、その達成に向けた積極的な取り組みが進められています。

3. 新しい「名市大未来プラン」策定へ

時代の変化に的確に対応し、本学の強みを活かしながら、15年後の明るい未来を築いていくため、2014年10月に「名市大未来プラン」を策定しました。策定から6年が経ち、当初掲げていた52項目のプランはほぼ実現することができました。

この「名市大未来プラン」を継承しつつ、本学の現状や社会情勢の変化を踏まえて、今後進むべき方向性を長期的かつ戦略的な視点で示す道しるべとして、新たなプラン「名市大未来プラン2021」を策定しました。

この名市大未来プラン2021の内容をもとに第四期中期計画を策定するとともに、その内容を名古屋市次期総合計画に反映させることで、本学の明るい未来の実現を目指していきます。



4つのビジョン、3つの視点、48のプラン

1. 大学憲章と名市大未来プラン2021の関係

名市大未来プラン2021は、本学の基本理念にふさわしい長期的・普遍的な内容とこれを踏まえた本学関係者の行動指針を示す「大学憲章」の精神に則って策定しました。



2. 4つのビジョン

2014年に策定した名市大未来プランでは、以下の4つのビジョンを掲げ、大学・附属病院の運営に取り組んできました。

- ① 誇りを持ち、愛される名市大：教育・研究・診療の環境づくり
- ② 名古屋市と共に発展する名市大：名市大の明るい未来づくり
- ③ 戦略性を持って世界に飛躍する名市大：和、実行力、戦略性、透明性のある大学づくり
- ④ 経営基盤が安定した名市大：経営改善に向けた体制づくり

3. 3つの視点 -3S-

名市大未来プラン2021では、上記の4つのビジョンを踏まえた上で、新たに3つの視点(3S：Society 5.0、Social Innovation、SDGs)を設定しました。これらは、本学の今後の全ての活動において、共通して意識すべき重要な視点です。



- Society 5.0
人工知能やデータベースを利用して人とモノがつながる社会
- Social Innovation
既存の解決法より効果的・効率的かつ持続可能な、社会問題に対する革新的な解決法
- SDGs
Sustainable Development Goals. 持続可能な開発目標

4. 48のプラン

名市大未来プラン2021では、以下8領域において、本学が今後実現を目指す48のプランを策定しました。

【8領域と、各領域のキーワード】

- ◆教育：学修者本位の教育の実現
- ◆研究・産学官イノベーション：先端的な研究による産学官イノベーションの創出
- ◆社会貢献：名古屋に育てられ、名古屋をつくる大学
- ◆国際化：地域に根ざしたグローバルな活動の展開
- ◆医療：卓越した高度先進医療の提供と地域包括ケアの推進
- ◆経営基盤：将来の発展を見据えた持続可能な経営基盤の確立
- ◆組織マネジメント：社会の変化と多様化に柔軟に適應できる組織づくり
- ◆MIRAIへの展開：時代の一步先をデザインし、進化し続ける大学

1. 教育



- (1) Society5.0をこえて活躍する未来志向の人材育成
- (2) 多様な学修者に対応できる柔軟な教育プログラムの構築
- (3) 学生本位の学修に対応した教育機会・学修支援の充実
- (4) 広い視野を持ち質の高い教育ができる教員による教育力の向上
- (5) 自主的・自律的な学修をサポートする施設・設備の整備
- (6) ICTを活用した学修環境の充実
- (7) 名古屋市教育委員会との連携および高大連携の強化



2. 研究・産学官イノベーション



- (1) 異分野融合型の革新的研究の推進
- (2) 市民の健康と福祉に革新をもたらす先進的な研究の推進
- (3) 社会課題・社会ニーズをベースとしたイノベーションの実現
- (4) 産学官連携支援体制の強化による共同研究の推進
- (5) スタートアップ企業支援によるイノベーションの創出
- (6) 優秀な若手研究者や大学院生が集まる魅力的な研究環境の構築
- (7) 研究拠点の設置と研究設備の拡充
- (8) 持続的な研究費の獲得
- (9) 研究成果の戦略的・効果的な発信
- (10) 名古屋市と連携した産学官連携の名市大モデルの構築



3. 社会貢献



- (1) SDGs17の目標達成に向けた取り組みの推進
- (2) 持続可能な地域づくりへの貢献
- (3) 学修者が自分自身を改革するための継続的な学びの環境の創出
- (4) 名古屋市が抱える課題の解決への貢献



4. 国際化



- (1) 教育・研究の国際化のための仕組みづくり
- (2) 国際交流センターの機能・体制強化
- (3) 海外拠点校を中心とした交流および協働の推進
- (4) 名古屋市の多文化共生を支える学際的な実践研究の促進



5. 医療



- (1) 約1,800床の病床を活かした医療体制の強化と高度先進医療の提供
- (2) 超高齢社会における医療体制の提供と地域医療への貢献
- (3) 高度先進医療提供のための病院機能の強化
- (4) 救急・災害医療機能の強化
- (5) 優れた医療人の育成と質の高い医療を提供する組織の構築
- (6) ビッグデータ・高度情報技術・ロボット技術の利活用
- (7) 臨床研究・治験ネットワークの構築
- (8) 安定経営のための経営改革・組織改革の推進



6. 経営基盤



- (1) 法人運営の基盤となる財源の確保
- (2) 多様な財源の確保に向けた取り組み
- (3) 附属病院群の堅実経営による法人運営の安定化
- (4) 資源の適切な配分やAI・ICTの活用等による法人運営の効率化
- (5) 長寿命化の視点に立った施設整備・有効活用



7. 組織マネジメント



- (1) 常に社会変化に対応できる柔軟な組織への進化
- (2) 戦略的な人材確保、育成および配置
- (3) 教職員一人ひとりが活躍できるためのダイバーシティの推進
- (4) 組織マネジメントにおけるAI・ICTの活用



8. MIRAIへの展開



- (1) 世界TOP100を目指した戦略的な投資
- (2) 本学が持続的に発展するための柔軟な対応
- (3) AI・ICTの積極的利用による複数キャンパスの最適活用
- (4) ブランド力の強化による国内外におけるプレゼンスの向上
- (5) 同窓会と名市大サポーターの協働
- (6) 名古屋市や関係省庁との連携の進化



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



名市大未来プラン2021では、SDGsの理念を踏まえながら、プランの実現を目指します。

1. 教育

✦ 学修者本位の教育の実現

多様で柔軟な教育プログラムの展開により、学生が明確な目標に向かって主体的に学ぶこと、自ら評価しさらなる学びにステップをすすめる自律的な学修者となることを支援します。



(1) Society5.0をこえて活躍する未来志向の人材育成

Society5.0やさらにその先の社会に貢献するため、バックカasting(※1)の観点からの学部・学科および研究科の構成の検討や、新たな学士課程・大学院課程の設置などにより、AI、IoT(※2)やビッグデータを活用し、産業界などで活躍する人材、このような社会を創造する都市政策の基盤を担う人材を育成します。

(2) 多様な学修者に対応できる柔軟な教育プログラムの構築

多様な学修ニーズに対応するため、学部間・研究科間の連携による文理融合や社会人・外国人なども含めた大学院教育などの柔軟なカリキュラムを設定します。このような教育カリキュラムを提供することにより、地域社会および国内外への広い視野を持ち、自ら課題を見つけチャレンジし、解決することができる人材を育成します。

(3) 学生本位の学修に対応した教育機会・学修支援の充実

教学IR(※3)を推進・活用し、地球規模の課題や地域に根ざした課題に対して国際的、学際的に取り組む機会を整えるとともに、学修者一人ひとりが居場所を感じられるキャンパスになるよう、学生本位の学修支援を充実させます。

(4) 広い視野を持ち質の高い教育ができる教員による教育力の向上

世界の潮流に即した内容・方法による教育や幅広くかつ深い教育を行うため、広い視野を持ち質の高い教育を実践可能な人材を獲得するなどにより教員の体制を強化します。また、各学部の教育の特長や課題に対応したFD(※4)を充実させるとともに、教員の教育力を評価する仕組みを導入し、その向上を図ります。

(5) 自主的・自律的な学修をサポートする施設・設備の整備

教育活動が環境や設備によって大きな影響を受けるため、学生の自主的・自律的な学修をサポートする施設・設備の設置を目指します。あわせて、地域住民による施設利用など、社会への展開も重視した設備投資を行います。

(6) ICTを活用した学修環境の充実

学生の主体的かつ能動的な学びの推進および学修時間の確保さらには学修成果の見える化を進めるため、また、災害やパンデミック感染症の発生時にも教育を継続することができるようにするため、ICTを活用した学修環境を充実させます。

(7) 名古屋市教育委員会との連携および高大連携の強化

名古屋市教育委員会と連携しながら、教員が社会の変化に応じた多様な学びの場に参加し、現代の諸課題に学際的に取り組む機会を子どもたちに提供することで名古屋市の教育に貢献します。また、高大連携を強化し、地域に貢献する優秀な人材を育成することで、市立学校とともに発展していきます。



医学・薬学・看護学部生の共同実習の様子(2019年)



芸術工学部での実習の様子(2019年)



進化型実務家教員養成プログラム(TEEP)
ワークショップ(PBL演習)の様子(2019年)



名古屋市立大学×名古屋市教育委員会 高大連携企画
「NCUグレイド・スキップ・チャレンジ2019」

□用語解説

- (※1) バックキャストिंग：望ましい姿の構築に向け、めざすべき将来像を描き、その実現に向けて今の取り組みの方向性や道筋がどうあるべきかを探る手法
- (※2) IoT：Internet of Things. モノ(物)とモノが相互に通信し、生活に便利さをもたらすしくみ
- (※3) 教学IR：Institutional Research. 大学教育における情報を収集、分析して、意思決定や改善活動を支援する取り組み
- (※4) FD：Faculty Development. 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称

2. 研究・産学官イノベーション

❖ 先端的研究による産学官イノベーションの創出

特色ある最先端の研究で社会を牽引します。産学官のステークホルダーとの連携により、社会課題・社会ニーズの解決と、研究成果の社会還元を推進することで、イノベーションを創出する新たな時代を切り拓きます。



(1) 異分野融合型の革新的研究の推進

ビッグデータを分野横断的にかつ自在に活用できるデータサイエンス(※1)研究などに代表されるような、産業界など多分野連携による革新的研究を推進します。

(2) 市民の健康と福祉に革新をもたらす先進的な研究の推進

本学が持つ広範なネットワークや先端テクノロジーを活かした研究を推進し、革新的医療シーズを創出します。臨床研究への参画や産学官イノベーション、デジタル環境の整備などを通じた技術革新による研究科横断的な先進医療を実現します。

(3) 社会課題・社会ニーズをベースとしたイノベーションの実現

産業界、大学、行政などの多様な主体の共通目標を設定し、社会課題・社会ニーズをベースとしたイノベーションを実現します。分野横断的な技術開発の仕組みや名古屋市立大学医学部附属病院群における技術開発の実証の場としての機能の整備などによって、全学で一丸となって産学官連携に取り組みます。

(4) 産学官連携支援体制の強化による共同研究の推進

産学官連携支援体制において、連携に必要な企画・提案・実行の支援を強化することで、産学官共同研究を発展させます。さらに、複数の寄附講座・共同研究講座の開設・運営や、研究初期段階から産学官連携を複数開始し事業化に結び付けることを目指します。

(5) スタートアップ企業支援によるイノベーションの創出

国の成長戦略の一つである「スタートアップ企業支援によるイノベーション創出」につながるものとして、産業界とのコラボレーションを生み出すオープンな環境を整えるなど、大学内外のネットワークを積極的に活用した大学発ベンチャー支援システムを構築します。また、研究者に加え、大学院生、学部学生などを対象としたアントレプレナーシップ(※2)教育を行います。

(6) 優秀な若手研究者や大学院生が集まる魅力的な研究環境の構築

優秀な若手研究者や大学院生が集まる大学を目指して、特徴的な講座の設置および研究者の招へいを行い、次世代研究者の育成体制・支援体制を強化するとともに、ポストコロナの新時代に合わせた多様な生活スタイルに対応する効率的な研究環境を構築します。



(7) 研究拠点の設置と研究設備の拡充

社会の様々なステークホルダーと連携し、共創の場となる研究拠点の設置、研究設備の更新、地域の共通機器センターとして設備・機能の拡充・共用化に向けた整備を行います。あわせて、総合大学としての強みを活かし、最先端の研究科横断的な研究拠点を構築します。

(8) 持続的な研究費の獲得

自主財源の確保につながる研究活動を推進することにより、研究設備および研究機器、研究体制の整備を行うため、多様な手段による研究費獲得を目指します。そのために、研究費獲得のためのセミナーを開催するなど充実した支援を行います。

(9) 研究成果の戦略的・効果的な発信

本学の研究者による先端的・国際的研究成果を総合的に整理・分析し、戦略的・効果的に発信することで、国内外における本学の存在感を一層高めます。

(10) 名古屋市と連携した産学官連携の名市大モデルの構築

名古屋市と産学官の連携を行う会議の設置により、名古屋市、中部経済界、近隣の大学などと未来像を共有し、連携することで、名古屋市における産学官連携の中心地となることを目指します。



脳神経科学研究所(2019年開設)



ヒトiPS細胞の培養や分化誘導をする装置をパナソニックプロダクションエンジニアリング株式会社と共同開発(2020年)



薬学研究科における研究の様子(2020年)

用語解説

- (※1) データサイエンス：
統計学・計算機科学・情報科学などを応用し、
各種のデータが持つ意味・法則性を探り出し、
また、その分析手法を研究する学問分野
- (※2)アントレプレナーシップ：
チャレンジ精神、創造性、探究心等の「起業家精神」や、
情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、
コミュニケーション力等の「起業家的資質・能力」

3. 社会貢献



名古屋に育てられ、名古屋をつくる大学

SDGsの達成に向けて、研究・教育・社会貢献の観点からの包括的な戦略で、公立大学として社会課題の解決に貢献します。また、名古屋市との連携強化を通して、名古屋市のシンクタンク機能を担い、新しい時代のまちづくりに貢献します。



(1) SDGs17の目標達成に向けた取り組みの推進

SDGs未来都市に選定された名古屋市と協調し、総合大学としての本学の力を発揮してSDGs推進拠点を構築します。行政や企業等と連携しつつ、教職員、学生が参画する本学の特长を活かした取り組みを推進し、社会課題の解決に貢献します。

(2) 持続可能な地域づくりへの貢献

市民が市民を支え・育てる持続可能な地域づくりの核となる人材育成に貢献するため、分野横断的に教職員や学生が市民活動に積極的に参加します。また、子育て支援や学習支援などを通して、地域に貢献します。

(3) 学修者が自分自身を改革するための継続的な学びの環境の創出

社会情勢の変化が働き方と生活の在り方に大きな影響をもたらす現代において、継続的に学び自分を改革し続けることのできる環境をつくり、「学歴ではなく学習歴に重きをおいた学び」の中心地となることを目指します。

(4) 名古屋市が抱える課題の解決への貢献

名古屋市の政策形成および政策実施を学術的な見地から支えるシンクタンク機能を強化します。また、ビッグデータなどを活用し名古屋市との学際的・横断的な取り組みを開始・推進しやすい環境を整備します。



SDGs IDEA FORUM 2020(名古屋市と共催)の様子



新たな社会貢献活動の一環として2020年に創刊した書籍シリーズ「名市大ブックス」

4. 国際化



地域に根ざしたグローバルな活動の展開

本学の特長とこれまでの実績を活かしつつ、研究と教育のさらなる国際化を推進します。国際社会および地域社会と協働し、誰もが平和と豊かさを享受できる世界をつくるための知を生み出し、人を育てます。



(1) 教育・研究の国際化のための仕組みづくり

学生が自らの未来を切り拓くために活用できるような国際的な環境を整えます。多文化共生社会への対応力育成や留学・海外発信を見据えた語学・専門科目の設定を行います。また、国際化のニーズに対応できる教育力・研究力向上のためのFD活動を行います。

(2) 国際交流センターの機能・体制強化

教職員が連携して大学の国際化を推進する国際交流センターの機能・体制を強化します。日本人学生の留学支援、外国人留学生への学修・生活支援を強化し、留学生の派遣・受入を活性化させます。同時に、対外的な情報発信の充実により、国際的なプレゼンスを向上させ、交流のネットワークを拡大します。

(3) 海外拠点校を中心とした交流および協働の推進

教職員と学生による国際交流・協働への主体的な参加を促進します。交流先を多様化するとともに、海外拠点校を中心とした国際交流協定校との間で、教育および研究の協働を拡充し、国際展開の学位プログラムの導入に向けた制度整備を行います。ICTを活用した交流を含め、海外拠点校との連携を深化させるための仕組みを構築します。

(4) 名古屋市の多文化共生を支える学際的な実践研究の促進

外国にルーツを持つ人たちが地域で生活していくにあたっての言葉の壁、心の壁、制度の壁をなくしていく方策について、総合大学ならではの学際的なアプローチで研究し、名古屋市に政策提言を行います。名古屋市における日本語学習の機会、保健医療へのアクセス、就労の安定、互いの異文化理解などを支援します。



国際交流センター(2019年)



NCUアジア拠点校シンポジウム2019の様子

5. 医療

▶ 卓越した高度先進医療の提供と地域包括ケアの推進

名古屋市立大学医学部附属病院群(以下、「附属病院群」という)(※1)がトップレベルの高度先進医療の市民への提供を行い、超高齢社会において健康長寿を推進するための予防医療や地域包括ケアシステムを深化・推進することで、「なごや医療モデル」を構築し、名古屋都市圏においてリーダーシップを発揮します。



(1) 約1,800床の病床を活かした医療体制の強化と高度先進医療の提供

高度先進医療を中心とする名古屋市民の幅広い医療ニーズを満たし、名古屋都市圏を牽引するとともに、将来を担う医師を養成します。附属病院群が名古屋都市圏のリーダーとしての立場を確立します。

(2) 超高齢社会における医療体制の提供と地域医療への貢献

急性期から在宅医療に至るまで、医療・行政・介護・福祉・教育といった各機関の緊密な連携により、「循環型の地域包括ケアシステム」を推進します。名古屋市健康福祉局との連携を強化し、少子高齢化・国際化等の医療需要に応えつつ、治療と予防の両輪をまわし、人生100年時代を生涯現役で過ごせる社会づくりに貢献します。

(3) 高度先進医療提供のための病院機能の強化

卓越した先端医療を創出して高度先進医療を推進するとともに、臨床研究の活性化に向けて積極的なインフラ整備と人材登用を行います。ゲノム医療(※2)、細胞・免疫療法、支持・緩和医療(※3)、高精度放射線療法等を含めたがん治療モダリティ(※4)、先進リハビリテーション(※5)の開発・発展を図るとともに、高齢者医療のニーズに応え、脳卒中・循環器病に対する予防から高度救命治療までのシームレスな医療構築の研究を進めます。附属病院群は研究面でも名古屋都市圏のトップを目指します。

(4) 救急・災害医療機能の強化

平常時における名古屋市民のための救急医療の充実、新型感染症や災害時の対応を想定した合理的な人・物流の動線の確保など、平常時と災害発生時のバランスを考えた救急・災害医療センター整備を行います。また、救急・災害医療機能の強化に向けた診療体制の充実と多職種連携の強化、医療人の育成に努めます。

(5) 優れた医療人の育成と質の高い医療を提供する組織の構築

高度先進医療を実践する高い専門性と倫理観を持ち、名古屋都市圏においてさまざまに活躍できる医療人を育成します。多様性を活かした働き方の推進と個人を尊重する文化の醸成によって、誇りと愛着を抱くことのできる組織の構築を目指します。安全で質の高い医療を安定して提供できる体制を進化させ、名古屋市民の健康と幸福に貢献します。

(6) ビッグデータ・高度情報技術・ロボット技術の利活用

附属病院群がもつビッグデータを、有効かつ安全に研究・活用できるシステムを構築するとともに、高度情報技術・遠隔診療・ロボット技術などを利活用した先端医療の実現で、日本と世界をリードします。

(7) 臨床研究・治験ネットワークの構築

臨床研究・治験のための環境を整備し、附属病院群を活用した大規模国際臨床研究・医師主導型治験を推進します。また、外部機関との人材交流を促進します。

(8) 安定経営のための経営改革・組織改革の推進

ガバナンスを強化することにより、人員・設備・資金の経営資源を無駄なく活用し収益性を高めます。外部環境の変化に柔軟に対応し、診療収入の確保や業務の効率化を図ります。積極的で継続的な経営改革や組織改革を進め、経営の安定を図ります。



名古屋市立大学病院



医学部附属東部医療センター



医学部附属西部医療センター



da Vinci Xi
(名古屋市立大学病院)



IVR-CT室
(医学部附属東部医療センター)

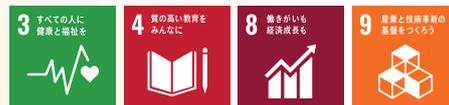


陽子線：ガントリ照射室
(医学部附属西部医療センター)

用語解説

- (※1) 名古屋市立大学医学部附属病院群：名古屋市立大学病院、医学部附属東部医療センター、医学部附属西部医療センターの3病院で構成される病院群(名古屋市立東部・西部医療センターは、2021年4月に医学部附属病院化予定)
- (※2) ゲノム医療：からだの設計図であるゲノム情報を調べることで、より効率的・効果的に病気の診断と治療を行う医療
- (※3) 支持・緩和医療：がんやがん治療に伴う苦痛・副作用の軽減を目的として行われる医療
- (※4) がん治療モダリティ：がん治療の手段や方法
- (※5) 先進リハビリテーション：先進機器を用いて心身機能の再建・維持を目的として行われる医療

6. 経営基盤



❖ 将来の発展を見据えた持続可能な経営基盤の確立

本学が将来にわたり発展していくため、安定的な財源の確保や外部資金の獲得を図ります。また、運営の安定化・効率化を図るとともに、長期的な視点に立った施設整備等により、持続可能な経営基盤の確立を目指します。



(1) 法人運営の基盤となる財源の確保

教育・研究・医療の質の向上により本学が将来にわたり発展し、自主的・自律的で特色のある健全な法人運営を行うため、運営費交付金・施設整備費等(※1)など、持続可能な法人運営の基盤となる財源の安定的な確保を目指します。

(2) 多様な財源の確保に向けた取り組み

教育・研究・医療の質のさらなる向上のため、寄附講座(※2)の積極的な獲得をはじめとする外部資金の獲得や、学生増による収入の増加、本学の資源を活用した新たな自己収入の確保など、多様な財源の確保を目指します。

(3) 附属病院群の堅実経営による法人運営の安定化

東部・西部医療センターの附属病院化を契機とした効率的かつ効果的な病院運営を行うことなどにより、附属病院群の堅実な経営を進め、安定的な法人運営を行うことを目指します。

(4) 資源の適切な配分やAI・ICTの活用等による法人運営の効率化

教育・研究・医療の各資源の適切な配分、AI・ICTを活用したシステムや部門別採算制の導入などによるコスト削減を通じ、効率的な法人運営を図ります。

(5) 長寿命化の視点に立った施設整備・有効活用

長寿命化の視点に立った施設整備を進め、学生の生活環境の魅力向上を図ります。また、施設貸付の促進により地域に施設等を開放し、その有効活用を図ることで、学生・教職員だけでなく市民に愛されるキャンパスを目指します。

□用語解説

(※1) 運営費交付金・施設整備費等：法人運営や施設等の整備・更新のための財源として、名古屋市から交付されるもの

(※2) 寄附講座：外部機関からの寄附金を財源として行う研究教育活動

7. 組織マネジメント



社会の変化と多様化に柔軟に適應できる組織づくり

変化が著しく、多様性に富んだ社会に柔軟に適應し、成長し続ける組織づくりを目指します。そのために、現状や課題を分析し、社会の変化や多様性を踏まえた成長戦略を企画・立案できる組織マネジメントを展開します。



(1) 常に社会変化に対応できる柔軟な組織への進化

変化の著しい社会を牽引し、社会の課題解決に広く貢献する大学であるために、臨機応変に適應できる教育研究組織および事務組織に進化します。事務組織の判断力・対応スピードを高めるために、様々な手法を取り入れ、多様な担い手とともに業務や組織の整理および見直しを行います。また、自己点検・自己評価の充実を基盤として、教育研究組織の見直しを行います。

(2) 戦略的な人材確保、育成および配置

法人化メリットをさらに活かし、革新的な大学組織として成長し続けます。FD・SD(※1)の充実、活発な人材交流、評価制度の刷新、効果的な給与制度の構築など、人材マネジメントを強化することで、成長し続ける組織を実現します。

(3) 教職員一人ひとりが活躍できるためのダイバーシティの推進

超少子高齢社会において、子育てや介護などそれぞれのライフステージに対応した多様な働き方が選択可能な職場環境を実現します。ワーク・ライフ・バランスの推進や、多様性を活かしたマネジメントの推進などにより、教職員一人ひとりの能力が最大限発揮できる環境を実現します。

(4) 組織マネジメントにおけるAI・ICTの活用

AI・ICTの活用によって、業務の自動化と工数削減を推進し、時間を生み出すことで、付加価値の高い業務に専念できる環境を実現します。また、情報の集約化や共有化を進め、組織横断的に活用することで、業務の効率化を推進します。



教職員合同研修会の様子(2019年)



名古屋市ワーク・ライフ・バランス推進企業 認証書授与式(2018年)

□用語解説

(※1) SD: Staff Development. 職員が大学の運営に必要な知識・技能を向上させるための組織的な取り組みの総称

8. MIRAIへの展開



時代的一步先をデザインし、進化し続ける大学

本学の強みを活かして研究・教育・社会貢献・医療を実践し、名古屋都市圏からその英知を世界にさらに発信することで、市民に愛されるとともに、本学のプレゼンスを向上させます。



学内保育所「さくらんぼ保育所」の子どもたち

(1) 世界TOP100を目指した戦略的な投資

世界TOP100を目指し、本学の強みを活かした研究・教育・社会貢献・医療の先駆的プロジェクトに戦略的に投資します。

(2) 本学が持続的に発展するための柔軟な対応

18歳人口の減少に伴う厳しい大学間競争を勝ち抜くため、社会環境の変化をいち早く察知し、他大学との連携強化などを含めた戦略的な視点を持つとともに、さらなる自主的・自律的な法人運営を推進することで、諸課題に柔軟に対応し、地域の高等教育施策に貢献します。

(3) AI・ICTの積極的利用による複数キャンパスの最適活用

各キャンパスそれぞれの特長を活かしつつ、AI・ICTを積極的に利用することで、複数あるキャンパスの効果的・効率的な最適活用を進めます。また長期的には、時代環境の変化に対応して、名古屋市民と大学の双方にメリットを生み出すキャンパス計画を策定します。

(4) ブランド力の強化による国内外におけるプレゼンスの向上

本学の強みを効果的に発信し、ブランド力の強化を図るとともに、多様な手法により国内外にアピールし、本学のプレゼンスの一層の向上を図ります。また、ブランド化により、学生、教職員、市民の愛着と誇りを醸成します。

(5) 同窓会と名市大サポーターの協働

同窓会間の垣根を越えた卒業生同士の交流を強化します。また、卒業生、在校生、教職員および本学を応援する名市大サポーターが一体感を共有できる取り組みを行います。

(6) 名古屋市や関係省庁との連携の進化

公立大学法人の設置団体である名古屋市に加え、文部科学省・厚生労働省・総務省など関係省庁との意思疎通を密にし、連携を進化させることで、名古屋都市圏の中核をなす都市型総合大学としてさらに発展します。

名市大未来プラン2021 策定チームリーダー・メンバー 一覧

チーム	リーダー			メンバー						
総論	薬学研究科 教授 経済学研究科 教授 芸術工学研究科 教授	平嶋 尚英 三澤 哲也 横山 清子								
教育	医学研究科 教授 薬学研究科 教授 人間文化研究科 准教授	酒々井 真澄 服部 光治 曾我 幸代		医学研究科 教授 経済学研究科 准教授 人間文化研究科 教授 芸術工学研究科 准教授	安井 孝周 木谷 名都子 山田 美香 大坪 牧人	看護学研究科 准教授 理学研究科 准教授 山の畑事務室 主査	尾崎 伊都子 奥津 光晴 梁間 さよみ			
研究・産学官 イノベーション	医学研究科 教授 人間文化研究科 准教授 看護学研究科 准教授	山崎 小百合 三浦 哲司 原沢 優子		医学研究科 教授 薬学研究科 教授 経済学研究科 教授 人間文化研究科 教授	飯田 真介 中川 秀彦 川端 康 松本 佐保	芸術工学研究科 教授 看護学研究科 准教授 理学研究科 教授	原田 昌幸 脇本 寛子 鎌田 直子			
	医学研究科 教授 芸術工学研究科 教授 産学官共創イノベーションセンター 特任講師	森田 明理 松本 貴裕 奥津 佐恵子		医学研究科 助教 医学研究科 准教授 薬学研究科 講師 経済学研究科 准教授	山田 敏之 金子 奈穂子 豊玉 彰子 湯之上 英雄	人間文化研究科 教授 看護学研究科 准教授 理学研究科 教授	久保田 健市 金子 典代 木村 幸太郎			
社会貢献	薬学研究科 教授 芸術工学研究科 准教授 看護学研究科 教授	山村 壽男 加藤 大香士 門間 晶子		医学研究科 教授 医学研究科 准教授 経済学研究科 准教授	赤津 裕康 榎原 毅 下野 由貴	人間文化研究科 准教授 理学研究科 教授 学術課	佐野 直子 熊澤 慶伯 産学官地域連携係長 安永 早利			
国際化	看護学研究科 教授 人間文化研究科 准教授 理学研究科 准教授	樋口 倫代 椎名 渉子 中務 邦雄		医学研究科 教授 薬学研究科 教授 経済学研究科 准教授	加藤 洋一 尾関 哲也 内田 真輔	人間文化研究科 准教授 芸術工学研究科 教授 学生課	市川 哲 辻村 誠一 国際交流係長 千原 聡			
医療	医学研究科 教授 医学研究科 講師 病院看護部 看護部長	大手 信之 久保田 陽介 中尾 敦子		医学研究科 准教授 医学研究科 准教授 医学研究科 講師 経済学研究科 准教授 東部医療センター 副病院長 東部医療センター 看護部長 東部医療センター病院管理部管理課 経営係長	高橋 広城 讃岐 徹治 澤田 雅人 和久津 尚彦 木村 昌弘 古林 千恵 山下 大器	病院看護部 看護主任 病院薬剤部 化学療法係長 近藤 勝弘 経営課 経営係・主事 西部医療センター 呼吸器外科診療科部長 西部医療センター 看護部長 西部医療センター病院管理部管理課 経営係長 病院局経営企画部経営企画課 企画係長	宮田 公子 篠田 紀子 羽田 裕司 山本 あゆみ 鈴木 優志 宇佐見 剛			
経営基盤	経済学研究科 教授 財務課 経理係長 経営課 経営係長	森田 雄一 六浦 陽介 長谷川 広樹		医学研究科 教授 経済学研究科 准教授 財務課 経理係・主事 財務課 出納財産係・主事 施設課 課長	村上 英樹 高橋 二郎 栗木 真吾(2020年7月~) 木村 和代 脇田 泰史	芸術工学部事務室 学務係・主事 大学病院化推進課 主査 経営課 契約調達係長 財務課 経理係・主事	水野 栄子 船越 徹 伊藤 康隆 井桁 みな美(~2020年6月)			
組織 マネジメント	人間文化研究科 教授 総務課 給与係長 教育研究課 学術研究推進係長	上田 敏丈 武藤 大 青島 健太		人間文化研究科 准教授 看護学研究科 講師 総務課 庶務係・主事 総務課 人事係・主事	林 浩一郎 遠藤 晋作 伊藤 理架 飯田 かおり	薬学部事務室 学務係長 事務課 事務係・主事 教育研究課 医療人育成係・主事	小島 沙織 保田 圭介 川口 恵実			
MIRAIへの 展開	医学研究科 教授 経済学研究科 教授 看護学研究科 教授	飛田 秀樹 鶴飼 宏成 窪田 泰江		医学研究科 教授 薬学研究科 教授 薬学研究科 講師 経済学研究科 准教授	松川 則之 青山 峰芳 堀田 祐志 濱口 泰代	人間文化研究科 教授 芸術工学研究科 講師 理学研究科 准教授	中川 敦子 フィルフォヴァ ネダ 三浦 均			
運営事務局	企画広報課 課長 企画広報課 企画係長(2020年10月~)	田中 雅隆 森 薫		企画広報課 企画係長(~2020年9月) 企画広報課 企画係・主事	鶴飼 和昌 古澤 宏明					

